



市民クラブ
柴田 文男
議員

前田市政1期目の評価と課題について

質問 本市の債務状況は好転したが、裏を返せば必要な事業に投資を行って来なかったということ。

市長が考える必要な事業・政策は何かを伺う。

答弁 これまでも申し上げているとおり、「選択と集中」の中で、定住自立圏構想の共生ビジョン策定、「日本で最も美しい村」連合への

江部乙地区の加盟申請、子ども・子育て支援計画の策定、栄町3地区の民間開発支援など、「やるべきことをやる」所存です。

質問 今後、定住自立圏構想で本市の最も必要な役割とは何か。

答弁 各市町が従来のようにフルセットで行政機能を確保することはもはや困難であり、広域での効率的な行政運営や圏域全体の課題解決には、将来像を十分に見据えた中心市としてのマネジメントが重要です。砂川市とともにその責

務を十分に果たしたいと思っています。

質問 副市長2人制の評価について伺う。

答弁 公約に基づき「滝川市の経済活性化」と「市役所改革」を目指し、民間出身の鈴木副市長を登用し、行政出身の吉井副市長とともに車の両輪として活躍していただいています。副市長2人制は、コスト面を捉えて消極的議論がされるのが間々ありますが、何人制が良いということではなく、重要な政策課題の解決、将来を見据えた市政運営の推進のため、柔軟に発想すべきことと考えています。

高等学校の間口問題について

質問 生徒が多く集まっている高校を間口削減の対象とすることは市民に理解されないのではないかと。

答弁 中学卒業者の大幅な減少が見込まれる中で、人気がある時こそ、進学先や就職先からも信頼される高校でなければならないと思います。定員のあり方は高校の評価を維持・向上させていくために重要な要素であり、他の高校のあり方を含め、市民会議で十分議論していただきたいと考えています。



日本共産党
清水 雅人
議員

自衛隊への市内中高生徒名簿提供中止を

質問 自衛隊への中学3年生、高校3年生と同年齢男子の名簿の提供が行われている。中止すべき。

答弁 住民基本台帳法での請求があれば、今後はリストでの情報提供は行わず、閲覧で対応します。

稲作・畑作新規就農対策の強化を

質問 米の価格暴落と消費減少が続くのは残念。一方、他穀物の自給率を上げるチャンスでもある。

しかし、後継者がいないのでは新たな設備投資もできない。今こそ後継者、新規就農者が本場に増加する本格的な対策を市として始めるべき。

答弁 水田・畑作などの土地利用型作物は、設備投資が莫大で、トマトなどほかの作物に比べて新規参入が進んでいません。滝川の農業が持続的に発展するため、また、穀物自給率向上のため、土地利用

型作物での第三者経営継承（リレー方式）導入を検討します。

小・中学校適正配置計画の前提として江部乙・東滝川の人口対策と合同部活動にスクールバスを

質問 「当面は存続します」、「今後のあり方を検討します」と5年前計画に記載された学校については、地域の子育て世代人口の増加が必要。そこで江部乙、東滝川地域（統合後対策として）に限り、住み替え支援補助制度の助成金額の増額等で、住み替え促進を求める。

答弁 高齢者の持ち家を子育て世帯へ賃貸する補助制度は、8月末で賃貸住宅の登録が25件、うち10件を子育て世帯が賃借しました。

しかし、特定地域への移転者増加を見込むのではなく、現制度を広く多くの人に利用してもらうため、制度変更は考えていません。

質問 小規模校、生徒数減少対策として、他校と合同で部活動する場合のスクールバス運行を求める。

答弁 複数校による合同運動部の活動が見込まれる場合には、生徒の移動に当たっての安全確保面からも運行が必要と考えています。